

令和7年度 第4回 三方原中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年2月17日（火） 15時00分から16時30分まで
- 2 開催場所 三方原中学校 被服室
- 3 出席委員 中川 秀三、鈴木 登志郎、中村 雅俊、岡本 秀人、細川 銀河、磯部 聖子、中村 雅臣、中野 久美子
- 4 オブザーバー 澤木 克彦（三方原協働センター所長）
- 5 学 校 足立 成寿（校長）、岡田 政之（教頭）、古橋 宏直（主幹教諭）、山岡 文彦（生徒指導主事）、大津 幸三郎（CS担当）、外山 直世（CSディレクター）
- 6 傍 聴 者 なし
- 7 会議録制作者 CSディレクター 外山 直世、CS担当 大津 幸三郎
- 8 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、中川委員から岡本委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

9 協議事項

- (1) 令和7年度学校関係評価
- (2) 学校運営協議会の自己評価
- (3) 令和8年度の学校運営基本方針の説明

10 会議記録

司会の岡田教頭から、委員総数8人のうち全員の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 令和7年度学校関係評価

議長指示により主幹教諭から別紙資料に基づき「学校関係評価」について説明があり、委員からは以下の意見があった

- ・このパーセンテージは、全校生徒の答えか？不登校生徒はこのアンケートの対象になっているのか。家庭学習の時間は、塾も入っているか（鈴木委員）
- ・時間が限られているため、不登校の生徒は、やっていない生徒もいる。塾の時間に対しては、質問の文言を変えていくように考える。（主幹教諭）
- ・本質的な部分も大事、質問を変えて考える。アンケートは、全員に答えてもらうようにしたい。（教頭）
- ・黄柳野高校を見学したが、その高校の子はこのアンケートをやったら、みんな93%以外の子だと思う。先生方も大変なのでいろいろ言うのはどうかと思うが、不登校で答えられない子もいる中で9割取れたからいいよと満足しないほうがいいのではと思う。（鈴木委員）
- ・今、宿題はどうなっているのか、減っているのか。（中村委員）
- ・まあ、減っている。（主幹教諭）
- ・宿題があれば家での学習は増える。外で遊ぶのも勉強といえば勉強だけど、個々の学習の定義も必要だと思う。（中村委員）

- ・勉強は、静岡県で三方原中ほどのくらいのレベルなのか。(中川委員)
- ・市内、地域によって、できるできないは全く違うと思う。(主幹教諭)
- ・三方原中は勉強はできないが、挨拶ができるのが売りだったのに、今は若干少ないと感じる。先生の指導も昔とは違うと思うが、挨拶の指導が変わったのか。(中村委員)
- ・コロナ時代を経て、みんなマスクをしている。声を出すことがなかなか苦手で、小さい時から機会がなかったのか、向き合っ給食を食べるのも恥ずかしい。人とのかわりが昔と変わってきている。でも、挨拶の指導はしていく。(生徒指導主事)
- ・さわやかな挨拶という文言を元気な挨拶に変えていくのがいいのでは。(岡本委員)
- ・勉強がわからないところは質問タイムで聞くということだったが、生徒は活用しているのか。(中村委員)
- ・生徒の意識の問題。意識の高い子はできているという印象。質問の機会を設定して、意識を高め聞きやすくなるようにする。(主幹教諭)
- ・困ったときは先生に相談することができますかの75%、残りの25%の子供はどうしているのか、相談するところはあるのか気になった。(磯部委員)
- ・電話をして聞くとか、相談するところはある。(校長)
- ・自分が中学生の時のことを思うと、困ったことがあるかと聞かれたら困ってないからいいやと思ったと思うので、質問の中身を精査したほうがいい。(岡本委員)
- ・何かあったときに相談できるところがあるかが大事、学校は常に身近な大人に相談すればいいよと言っていく。数値が高いからOKではなく、身近な大人に相談するように指導する。(教頭)
- ・相談する場所があるということを示してほしい。(岡本委員)
- ・いじめ問題について説明。(生徒指導主事)
- ・SNSトラブル続出とあるが、そんなにあるのか。(鈴木委員)
- ・何百件もあるわけではないが、数十件はある。コミュニケーションのずれがあり、対応しづらい問題である。(生徒指導主事)
- ・特定の子ではなく、ポツンポツンとあるということか。(鈴木委員)
- ・スマホを持っていると、いつでもどこでも動画と写真が撮れてしまう。その辺の指導と拡散の怖さはしっかり説明しないといけないし、してほしいと思う。(岡本委員)
- ・人それぞれ考えがある。感覚の違い、その写真は私はOK、私はNGといろいろあって難しい。(校長)
- ・SNSのトラブルで学校に来られない子がいるのか。(中村委員)
- ・来られなくなる子はいる。SNSの難しさがあり、対応が難しい。(生徒指導主事)
- ・特定のSNSがあるのか。(磯部委員)
- ・インスタストーリー、ライングループなどが多い。
- ・近くの幼稚園でもトラブルがあった。かわいい写真なんだからいいと思うが、それぞれの考えがある。(中川委員)
- ・誰でも見られるところにあげるから問題になる。行事の写真も勝手にあげてはいけない。(岡本委員)

- ・この件は学校ではなかなか難しいと思う。家庭で対応していくのも大事だと思う。

(鈴木委員)

- ・新入生の説明会には保護者が必ず来てくださるので、その時は必ず SNS についての説明をする。(校長)
- ・「続出」という表現にどれだけあるのかとびっくりする。(中村委員)
- ・SNS…またかー！となるので続出と表現した。(生徒指導主事)
- ・家庭でもどう対応していくか話すべき問題。(岡本委員)
- ・すべての親に説明が必要だと思う。(中村委員)
- ・中学生は、なんでも影響を受けてしまう時期であるから注意は必要。(中川委員)
- ・影響を受けやすい時期なのでそれに対応していくことが大事。(岡本委員)
- ・新しい時代の対応をしていきたい。(生徒指導主事)

(2) 学校運営協議会の自己評価

- ・自己評価についての説明(教頭)
- ・体験談を話していただいて、それに対して意見を出し合えていい時間だった。

(岡本委員)
- ・自治会長さんがいるときに、学校の現状を伝えてこのようなことをしているとアピールすればよかった。今度アピールしようと思おう。(中川委員)
- ・ほかの学校の方の意見を聞く機会があった。他はつまらない会議だったという意見だった。ジョークを言い合いながら何でも話せる環境を作っていただけて、素晴らしいと思う。(中村委員)
- ・生きにくい時代だと考えている。先生と話すと先生方の変さがわかる。ほかのお母さんたちに伝えていきたいと思う。この場にいられるのはありがたいと思う。(細川委員)
- ・学校の説明をしていただいてよくわかった。学校と家庭、地域の連携が必要だと思う。

(中村委員)
- ・いろいろな立場の地域の方々、先生たちと話せて、こういう場に参加できてよかったと思う。いい経験をした。(中野委員)
- ・年4回のこのような場で、学校がやってくれることがよく分かり、よかった。個で何とかしていくのではなく、集団で話し合うことがよかった。(磯部委員)

(3) 令和8年度の学校運営基本方針の説明

- ・校長より AI を活用して作成したパワーポイントにより説明が行われた。
- ・熟議は4月をお願いします。(校長)

11 協働センター所長より

- ・SNSの問題については個々の情報モラルのスキルを上げていかななくてはいけないと思う。

12 連絡

ゆめはぐ6万円はサーラでの三翔発表会の会場費の足しにした。ありがとうございました。

(教頭)